

好奇心の扉を開く！  
**ヴィクトル・リヤードフ  
ピアノセミナー&リサイタル**

■ピアノセミナー2005  
11月22~27日 日本ピアノサービスレッスンルーム（神戸市）  
申し込み受付：9月1日～11月2日

■ピアノリサイタル  
11月20日(日) 15:00 在大阪ロシア連邦総領事館  
問: 大阪アーティスト協会 06-6135-0503  
主催: ヴィクトル・リャードフピアノセミナー実行委員会  
TEL 06-6543-1729 Eメール pianoseminar@nifty.com  
URL: <http://homepage3.nifty.com/pianoseminar/>

昨年のセミナーの様子。  
指導にも熱が入る



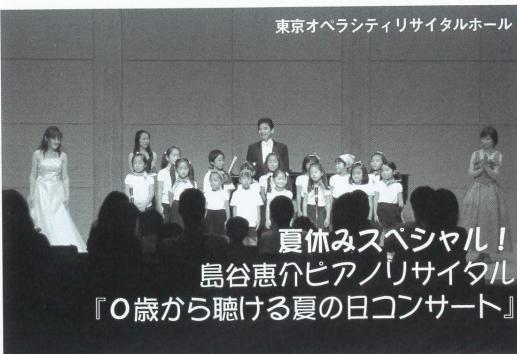
ました。それは、自分の想いを表現するのと、人の「ミーティングを持ちたい」というところが、アンサンブルの魅力を感じ醸成してしまうから。本番でも、思いがけない相手の問い合わせに新しいアイデアで反応して答える楽しさを感じます。

ヨーロッパの人も演奏すると、時々、日本人はとてもよく弾くが、表現が平均的であると言われます。一方ヨーロッパの人は、抑揚がありましたが、日本語としか言ひようがない、自然でニコニコ、喜んで演奏をします。ドイツに来て9年経りましたが、こうした中で、自分の中にあるものを解放する喜びが培われてきたなって思います。

今年は、ドイツで見たたびご一緒にさせていただいているバルディー＝氏とのデュオ・リサイタルが日本で実現しました。ウイーン育ちの生き生きとした音楽性を持った先生から、多くのことを学ばせてもらっています。みなさまと日本の音楽の喜びを少しでも分かち合なことができる喜びをたら喜せています。

宮谷理香+赤坂達三  
HARMONY SALON CONCERT  
OP.50  
～夏の夜のファンタジー～

[文]編集部



文森川玲名 写真 酒井竜児

多彩な音楽活動はもとより、アーティスト、コマーシャル・ディバイザ・ヤパンの音楽監督も務め、同様に多くの音楽コンクールを先導する開催者でもあります。島谷寅介氏、「小さいころから、ばかりの演奏を親々と一緒に聴いてほしい。そして、ステージにあがる貴重な経験を多くの子どもたちに味わってほしい」という想いから、『0歳から聴ける「コンサート』』を2001年にスタート。今回は全国3カ所4公演(3部作)「口グラン」が実施された(8月10日の東京・2公演をレポート)。



石譲の作品などを演奏、コンサートの幕が降りた。

くステージ。前年の公演の「ソンゼル」と一緒に創りあげて、ルヒグレーテル」、「後半の眠れる森の美女」、子どもたちと一緒に挑戦。短いフレーズではあるが、一生懸命に練習したつもりを披露する姿は、とても微笑ましかった。

また、「サウンド・オブ・ミュージック」のコーナーでは、歌が大好きな子どもたちが合唱で歌詞振り付けながら「エーデルワイス」や「ドレミの歌」を熱唱。客席では、その元気な歌声につられて、身体でリズムをとしたり、抱っこしている赤ちゃんを膝の上で揺らす光景も見られ、音楽との一体感を楽しんでいるのが印象的だった。

そして、農夫長がピアノソロで久石譲の作曲などを演奏。コンサートの幕が降りた。

へ、實行委員會さんが「自己で開かれている心  
地まるホーム」のサークル。  
「同窓会をホストし、」自身がピアノを弾か  
れ、演奏のあとは皆でテーブルを囲んでおい  
しいお料理をいただく、そんな和やかで楽し  
いひととき……。



「…両親をホスト」、「自身がピアノを弾かれ、演奏のあとは皆でテーブルを囲んでおいしいお料理をいただく、そんな和やかで楽しいひととき…」。

ラリネットを吹き続けるという大変めずらしい試みがおこなわれた。とりわけ目を引いたのがハ長調のクラリネット。サンリーサンスのオーボエソナタをクラリネットで演奏するというのは、世界でも赤坂さんひとりだけだ。

途中、宮谷さんのソロでショパンのノクターン「遺作」と黒鍵のエチュード」が演奏され、ほつと一息つく穏やかな時間が流れた。そのほか、ふたりの質問コーナーなどトークも充実。

そして、プログラム最後にはふたりでアソラを。アソラとはとてもカッコいい!「アニスト泣かせの曲」と宮谷さんはいはうけれど、ショパンニストとして名を馳せる彼女の新たな魅力が垣間見られた名演だった。